

文化財めぐり

発行日 平成15年11月14日

発行所 長崎市魚の町5-1

長崎市教育委員会

生涯学習部文化財課

TEL 829-1193

# 皓臺寺・大音寺・発心寺



皓臺寺 総門



大音寺 山門



皓臺寺 山門



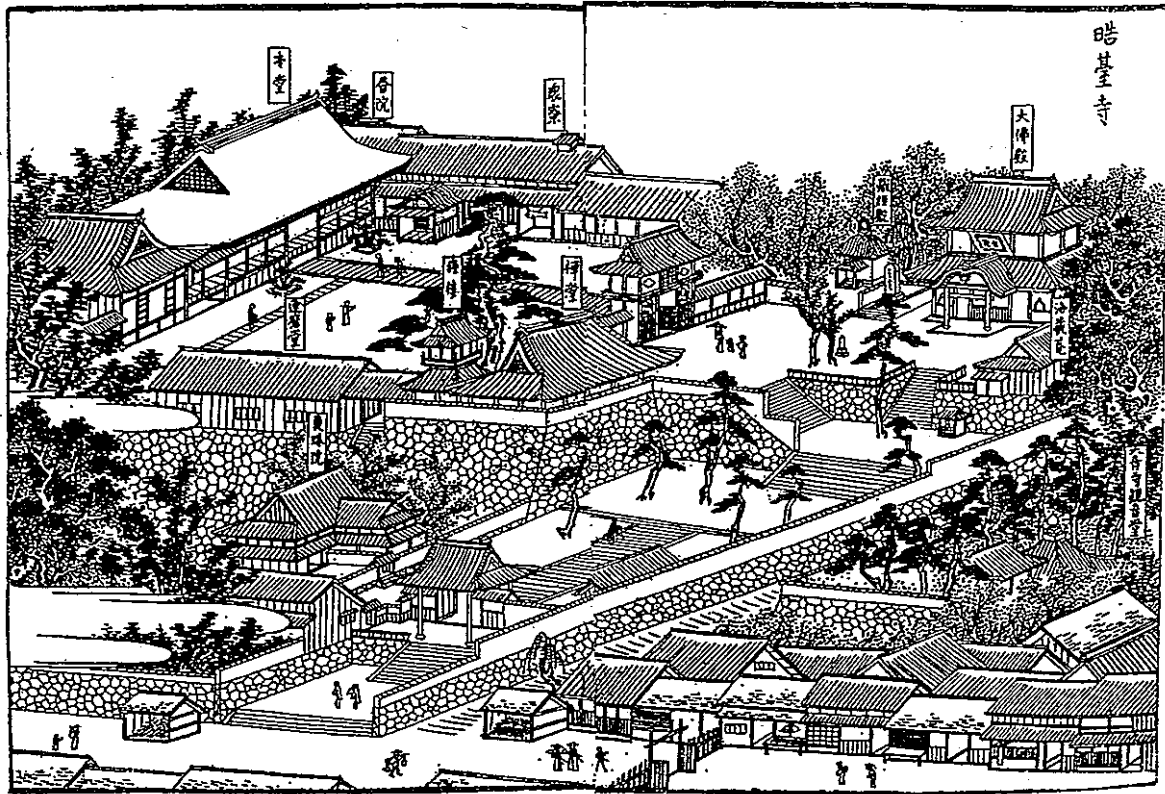
大音寺 中門

日時 平成15年11月16日(日) 10:00~12:00

コース 皓臺寺~大音寺~発心寺

主催 長崎市教育委員会・長崎国際文化協会

講師 長崎市教育委員会文化財課 学芸員 立石 明



### 海雲山 普照台禅寺(曹洞宗)

慶長13年(1608)肥前国松浦郡山口村(現佐世保市相浦)洪徳寺の僧亀翁良鶴が岩原郷(現玉園町)に開山し、当初は笠頭山洪泰寺と称しました。元和元年(1615)佐賀玉林寺一庭融頓が住持となり、寛永3年(1626)現在地に移転。一庭は学識高く教化に努めましたので、同19年(1642)には3代將軍家光、明正天皇に拝謁し、現在の山号と寺号を賜りました。島原の乱後、天草島民への教化に努めた功により、正保5年(1648)には朱印地となり、以後長崎三大寺院の一つとして寺格の高さを誇り、代々の住持は幕命により選出されました。後山には、唐通事林・官梅家墓地、阿蘭陀通詞加福家墓地、町年寄の高島家墓地、後藤家墓地(以上市指定史跡)のほか、上野彦馬、シーボルトの娘楠本イネ等、著名人の墓地が多くあります。

### 大仏殿(華嚴閣)

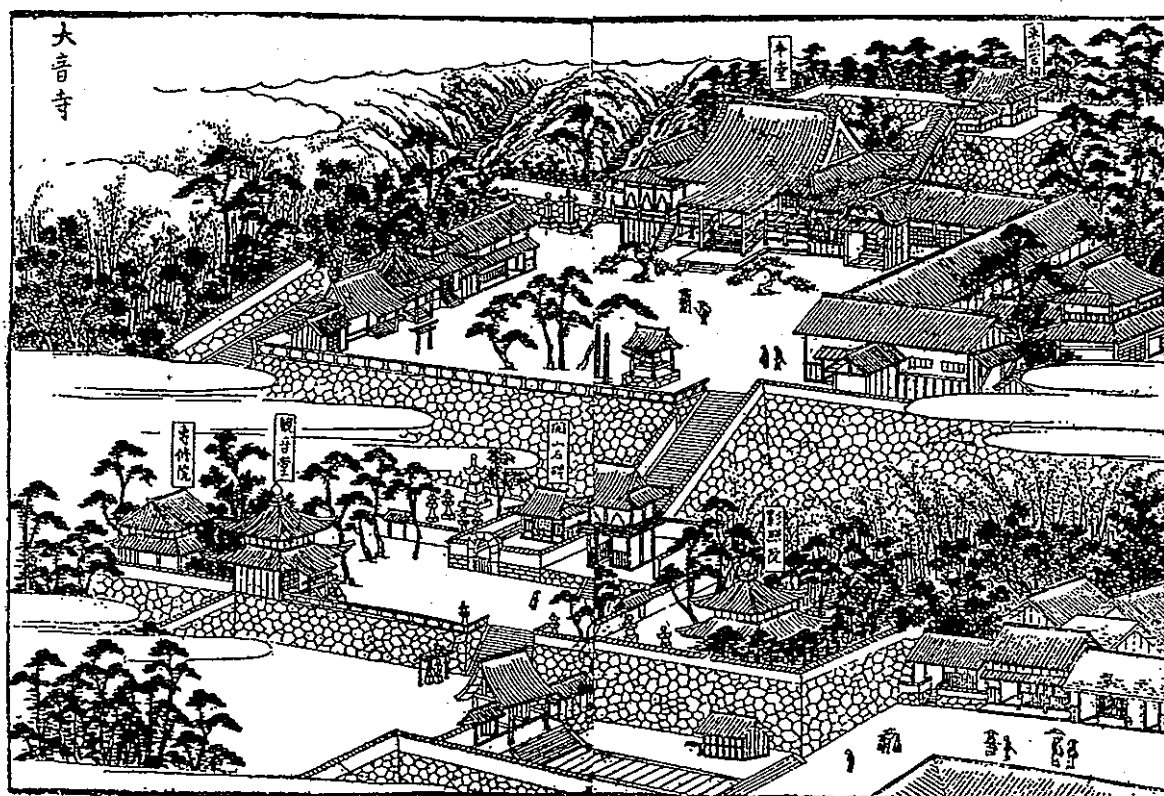
延宝5年(1677)5世逆流禎順が建立した、長崎最大の丈六(1丈6尺=約4.8m)銅像毘盧遮那仏坐像が安置されています。佐賀の冶工により、当地において鑄造されたものといわれています。天和元年(1681)に仮堂が建てられ、享保8年(1723)11世古岳日峻の代に至り華嚴閣が完成しました。豎額「常寂光」は曹洞宗の唐僧東卓心越の書です。

### 本堂(萬徳殿)

寛永3年(1626)移転した際は現在の庫裡の位置に建てられましたが、寛文3年(1663)3世月舟宗林の代に現在地に新築されました。中島川に大手橋、一覽橋を架設した高一覽により、寛文5年(1665)に寄進された釈迦・文殊・普賢の三尊像が本尊とされています。用材には唐船により持ち渡られた紅毛木(チーク材)が使用されています。正面の横額「萬徳殿」は清の書家陳禎によるものです。

### 普照台の梵鐘(市指定有形文化財)

当初の梵鐘は寛永19年(1642)重興開山一庭融(鷲)頓が唐大通詞中山太郎兵衛尉繁長を本願大施主に(前年病死)、シャム貿易の津田又左衛門尉俊昌の助力を得て長崎の冶工阿山助右衛門国久に鑄造させたものでした。しかしこれは音色が弱かったので元禄15年(1702)当時8世重関了道が改鑄しました。冶工は肥前佐嘉長瀬町住谷口安左衛門兼清で、これが現在の梵鐘です。大施主の特定の姓名がないので、広く寡財したものと思われれます。市内の梵鐘では佐嘉の鑄物師の手になる唯一の梵鐘です。



「長崎名勝図絵」より

### 正覚山 中道院 大音寺(浄土宗)

慶長19年(1614)筑後の人伝普は、最初古町に中道院を開きましたが、元和2年(1616)本博多町(現万才町法務局)のミゼリコルディアの跡地を賜りました。同3年(1617)京都知恩院の末寺となり、寛永18年(1641)に現在地に移転し、同年長崎で最初の朱印地となります。延宝2年(1674)徳川幕府歴代将軍の位牌を祀る御霊屋が建立されるなど、皓臺寺、本蓮寺と並ぶ長崎三大寺の一つとして高い格式を誇りました。後山には、荒木宗太郎墓地や阿蘭陀通詞中山家墓地(ともに市指定史跡)、長崎最大の住職墓碑群などがあります。

### 松平図書頭墓地(市指定史跡)

松平康英(1761~1808)は、文化4年(1807)81代長崎奉行となり、任官して図書頭と称しました。当時ナポレオン戦争でオランダはイギリスと交戦状況にありましたが、文化5年(1808)8月15日英軍艦フェートン号が不法入港し、オランダ商館員2名を人質にとり、薪水・食料を要求しました。その時の長崎警備佐嘉藩は警備を怠り、四囲の各藩も消極的でしたので、やむなく要求を全て入れ、艦は8月17日出港しました。康英は奉行としての責任を痛感し、始末を記した遺書を残して割腹自害しました。町民は哀悼の意を表して、長崎総町の発議により諏訪神社境内に図書大明神康平社

として祀りました。この事件は幕府に大きな衝撃を与え、文政8年(1825)の異国船打払令のきっかけとなり、一方では英語教育の発端となります。

### 大音寺のクロガネモチ(市指定天然記念物)

クロガネモチはモチノキ科の雌雄異株の常緑高木で亜熱帯・暖帯の主として沿海地に自生します。これは胸高幹囲2.60m、樹高15mで、この種としては極限に近いものです。雌株ゆえ、晩秋から冬にかけ、枝いっぱい真紅の円い果実をつけ美しい姿となります。出島三学者の一人ツェンペリはその著書FLORA JAPONICAの中でKuro Ganni Motijと記しています。

### 大音寺のイチョウ(市指定天然記念物)

イチョウは中国原産の落葉高木で、日本には鎌倉時代に渡来したといわれ、昔から神社や寺院に植えられています。ケンペルにより世界中で紹介されました。このイチョウは胸高幹囲3.90m、樹高約20mで、地上6mほどから5本の支幹に分かれ、各々の支幹は大小の枝を斜上させ、樹形は雄大。雄株で多くの乳柱を幹につけ、樹勢も旺盛です。イチョウの平均生長は、直径1mで300年といわれるので、このイチョウも樹齢300年を超えているものと思われます。

### 横超山発心寺(浄土真宗本願寺派)

大村藩の僧圓識は、元禄13年(1700)藩内の西本願寺派寺院が故あって東本願寺派に転じることとなったとき、それまでの恩顧により改派するに忍びず、西本願寺派長崎御坊である大光寺に留錫しました。当時の大光寺住持西順は、圓識の同派に対する節義を本山に報告したところ、宝永7年(1710)西本願寺法主・寂如上人から自署の親鸞聖人像を贈られました。その後、圓識の子孫は大光寺の役僧を務めましたが、文政元年(1818)本山より寺号公称を認められ、明治11年(1878)寺を現在地に独立するに至りました。

### 発心寺の梵鐘(市指定有形文化財)

下方が八角形の花弁のように開いている、独特の形をした珍しい鐘です。これはもと中国北京西門内某寺院にあったもので、長崎の村上某氏がある事情で購入、長崎に持ち帰ったのを、明治35年(1902)発心寺が買受け、梵鐘として現在に至っ

ているものです。鐘銘に「皇国永固 帝道遐昌 佛日増輝 法輪常転 正統三年春吉日書 鑄匠 周広善造」とあります。正統3年(1438)は明朝英宗の代で、わが国では室町時代足利6代將軍義教の永享10年に当たり、長崎市内に現存する梵鐘では最古で、古さでは県内でも5指に入ります。また形式の点では対馬峰町筒通寺梵鐘がこの型形を有しこれは李朝初期の作と推定され県指定文化財となっていますが他には例がまれです。

